

医療的ケアに対応したグループホームを増やして行くには…。

千葉県内の障害者等グループホーム(以下GH)で、医療的ケアが必要な方が入居している件数は極端に少ないのが現状です。今回のインタビューでは、医療的ケアが必要な方の現状と、GHで支援をする為、どのような課題があるのかをお伺いいたしました。

住所：千葉県千葉市緑区白丁1丁目4番5-2  
開所日：月曜日～金曜日/金曜日/平日  
電話：9時00分～17時00分  
043-299-11831  
メール：ksh@chiba-care.jp

千葉県医療的ケア児等支援センター

ぼらりす

千葉県医療的ケア児等支援センター

ぼらりす

医療的ケア室コーディネーター  
佐藤 健夫氏



## Interview

トップインタビュー

○「ぼらりす」の機能を教えて下さい。

○ぼらりすは、医療技術の進歩等を背景に医療的ケアが必要な児童が増加傾向にある中で、医療的ケア児者と重症心身障害児者等の成長発達を保证され、あたりまえの暮らしができるよう、ご本人と家族・支援者を見守り支援する機関です。リハビリテーション医療施設(病院)、総合療育センター(愛育園・児童発達支援センター)、障害者支援施設(更生園)、ならびに補装具製作施設を併せ持つ、千葉県千葉リハビリテーションセンター内にあります。ぼらりすの機能は「相談支援」、「人材育成」、「機関連携・協働」、「地域体制整備」、「情報収集・発信」、「権利擁護と虐待防止」です。医療的ケア児とご家族が安心して暮らししていく為に必要環境の提案などを行っています。また、地域に医療的ケア児等の支援に関する協議の場の設置を推進し、活性化を図るなど地域体制整備にもあたっています。

現在、県内の医療型障害児入所施設(療養介護)の入所待機者は150名以上あり、なかなかベッドが空かないため年間入所数をご希望多くなっています。ご家族の休息や冠婚葬祭、出産、きょうだいの用事などに活用できる短期入所ご希望も多いためいただいておりますが、県内の医療型短期入所の定員が30床と少

なく、ご希望を充足するに至っておりません。地域のGHで短期入所の受け入れをして頂けると、とても助かります。老人保健施設などの介護保険施設でも重症心身障害や医療的ケアの必要な方の短期入所をおこなう事業所があります。GHでも受け入れを検討して頂ければと思います。

○ケア児の抱える課題は何ですか？

○医療的ケア児者がGHで暮らしための課題は、医療と福祉との連携です。日常の健康管理に加え、急変時の医療機関のバックアップと充実した生活のための福祉支援がかかせません。

健康管理だけではなく充実した生活のための福祉支援がかかせません。

また大規模災害時の対応も課題です。医療的ケア児者は人工呼吸器など医療機器の使用が欠かせない方が多く、電源の喪失が命に関わります。もしもの時に備えて、発電や蓄電設備を設置して頂きたいと安心です。発電機や蓄電池は地域住民の役に立ちますし、是非とも備えて頂きたいです。

また、在宅の医療的ケア児者も近隣のGHに発電や蓄電設備があれば、災害時に頼る事もできるようになると思います。

○医療的ケア児者を受け入れたいGHに求める事は？

○一人ひとり違う支援が必要な事を前提に、その方が必要としているサービスやカスタマイズして提供していることです。介護職員等による喀痰吸引等の実施のための制度活用や医療設備が十分でないGHでも安全に生活するために必要な取組やその課題について検討をする機会が得られると良いです。

○医療的ケア児者が利用できる短期入所施設を教えてください。

○県内6つの医療型障害児入所施設、療養介護事業所で医療型短期入所の利用ができます。「短期入所が十分利用できない」と言う声も聞かれますが、緊急時は6施設が連携して利用に繋がっています。

医療機関によっては、レスパイト入所の相談もできます。

老健における短期入所の他、福祉型短期入所や市町村の地域生活支援拠点事業として、重症心身障害児者や医療的ケア児者等の短期入所の受け入れを行う施設や相談場所が少しずつ増えてきています。

※医療型障害児入所施設

●光陽園（柏市）

●下志津病院（四街道市）

●千葉リハ愛育園（千葉市）

●桜木園（千葉市）

●千葉東病院（千葉市）

●聖母療育園（旭市）

○医療的ケア児等コーディネーターについて教えてください。

①医療的ケア児が必要とする保健、医療、福祉、教育等の多分野にまたがる支援の利用を調整、総合的かつ包括的な支援の提供につなげるとともに、医療的ケア児者に対する支援のための地域づくりを推進する役割が求められています。医療的ケア児者への支援は、多機関多職種が関わり相談窓口も多いのですが横



左から、医療的ケア児等コーディネーター 佐藤郁夫氏  
医療的ケア児等コーディネーター 山野木大海氏  
医療的ケア児等コーディネーター 泉山朋子氏

断的な連携のための総合調整が必要でありその軸となるのが医療的ケア児等コーディネーターです。

私たちほらりすのコーディネーターの他にいくつかの市町村でも配置されています。新たに、配置を検討している市町村も複数あると聞いています。

### 千葉県の子供心身障害児者と医療的ケア児者（平成30年度）

重症心身障害児（18歳以上）

874名

重症心身障害児（3歳～18歳未満）

621名

医療的ケア児（18歳以上）

419名

医療的ケア児（1歳～18歳未満）

533名

千葉県では平成30年度に重症心身障害児者および医療的ケア児者を対象に実名による実態調査を実施しました。この調査は、重症心身障害児者および医療的ケア児者が、どこでどのように生活し、どのような支援を必要とされているかを、行政が実態を把握し支援に繋げるために、実施したものです。調査結果はリスト化し、市町村ごとに名簿を管理しています。今後は、毎年市町村が主体となって実態調査を更新し医療的ケア児者のニーズ把握に努めるとともに、災害時の避難計画の策定等に繋げ、支援体制を整備されることを期待しています。

### 医療的ケアとは？

医療的ケア児とは、生きていくために日常的にたんの吸引や経管栄養や呼吸器管理などが必要なお子さんのことです。病院で行われる治療のための医療行為とは異なり、子どもが日常生活を支えるために家族が医療行為を毎日行っています。



### 「ほらりすのみちしるべ」

「医療的ケア児者・重症心身障害児者と家族のための…ほらりすのみちしるべ」は医療的ケア児者の家族の為に情報をまとめた冊子。

下記のホームページから閲覧とダウンロードできます。

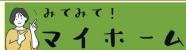


この可愛らしいイラストはスタッフのご親族の画家が描いているそうです。

愛称の「ほらりす」は、空を見上げるといつも北の空を放つ北極星のように、千葉県のどこに暮らしていても、迷った時に道標となることをめざして命名したそうです。

千葉県医療的ケア児等支援センターはご本人・ご家族・支援者を見守り応援する千葉県の空に輝く「ほらりす」北極星でありたいと願っているそうです。





# さくらメイト

住所：さくら 木更津市旭町南3-12-14  
 HARU 木更津市旭町南3-12-15  
 結 (YUI) 君津市西坂田4-8-12  
 電話：0438-77-6223  
 HP：https://poi5813.wixsite.com/sakura  
 MAIL：staygold422@gmail.com



合同会社 STAY GOLD 代表 青木敬氏

## 笑顔あふれるグループホーム

JR君津駅から徒歩15分の閑静な住宅街にある「さくらメイト」に、今回はお邪魔しました。介護サービス包括型で、平均区分は3.5です。代表の青木敬（たかし）さんが2年前から始めたホームで、障害を持つお子さんがおられることが開設の動機の一つ。

「自分が住みたい家、家族を任せられるホームを創りたいと思っています」と、控えめぬ口調とおっしゃいます。さくらメイトは、青木さんの長女の名前に因んだ「さくら」、

長男の名前に因んだ「HARU」、そして今回訪問した「結（ゆい）」の3棟で構成され、すべて4名定員の戸建て男性棟です。結は2月にオープンしたばかりで、「良縁に結ばれるように」と、これら「良縁」の意味が込められているそうです。君津圏域ではこの数年、GHが増して飽和状態となりつつあります。

「2年前までは、GHに入りたくても数が限られていて、選べなかった。選べるようになったこと自体は好ましいと思います」と、青木さん。入居者のAさん（62）に「ここを選んだ理由をお聞きしました。第一に、コンビニやドラッグストアが近くにあり、立地条件が良かった。第二に、建物が良かった。だけでなく決め手は、経営者の人間性でした。」



おしゃれな雑貨が、ホームに「彩り」を添えています



彩りと栄養豊かな手作り料理



広室の様子です

- 利用料金 □  
 家賃（家賃補助抜）  
 30,000～42,000円  
 食費 27,000円  
 光熱水費 13,000円  
 日用品費 10,000円

また、特定の利用者と特定の世話人の間で依存関係が生じないように、3棟間でスタッフのローテーションを組んでいるのだとか。フランスの片田舎を思わせる壁時

「パンフレットがどんなに素晴らしいかと、問題も、問題は建築関係の仕事をしていたら、別のGHを体験し、ペンキが剥がれていたり塀が崩れていたりというのが気になった。いくつ障害者といっても、分かる人には分かるんです。」

ポリュームたっぷりの料理はすべて、男性の世話人さんたちによる手作りです。献立作りまでこなしているスタッフの人間関係には一番気を使っているとのこと。ギスギスしている利用者さんにも影響が及んでしまいます。

「パンフレットがどんなに素晴らしいかと、問題も、問題は建築関係の仕事をしていたら、別のGHを体験し、ペンキが剥がれていたり塀が崩れていたりというのが気になった。いくつ障害者といっても、分かる人には分かるんです。」

「福祉の仕事は大変な部分もありますが、他の仕事にない喜びや学びに繋がる事が多いです。スタッフも利用者さんも良きところを伸ばし改善を繰り返しながら、皆と一緒に作っていくGHでありたいと思っています。」

青木さんは足元もしっかり見つけておられるようです。ご縁のある習志野市にもGHを創る構想をあためておられます。

「福祉の仕事は大変な部分もありますが、他の仕事にない喜びや学びに繋がる事が多いです。スタッフも利用者さんも良きところを伸ばし改善を繰り返しながら、皆と一緒に作っていくGHでありたいと思っています。」

「福祉の仕事は大変な部分もありますが、他の仕事にない喜びや学びに繋がる事が多いです。スタッフも利用者さんも良きところを伸ばし改善を繰り返しながら、皆と一緒に作っていくGHでありたいと思っています。」



外観の様子です



玄関のカメラで防犯もバッチリ

# さくらメイト HP



# 起勢逢楽



あわ けんいさ つむじ なおと  
安房圏域 街風直人

中核地域生活支援センターひだまり  
住所：館山市山本1155  
電話：0470-28-5667  
メール：awa@chibaghw.org

「起勢逢楽」は各圏域を奔走するGH等支援ワーカーを紹介するコーナーです。



法人内の人事異動で、昨年の4月から障害者グループホーム等支援ワーカー（以下支援ワーカー）として勤務する事になり、毎日慌ただしく過ごしている間に気付けば1年が経ってしまいました。不安は沢山ありましたが、皆様のご指導を頂きながら何とかやってくることが出来ました。

障害者グループホーム（以下GH）は、法人内でも経営している事もあり、どういう物のイメージは出来ていたのですが担当圏域のGHを見学させて頂くと、GHにも色々あり、そこで起きていた問題や相談も様々でした。

「他のGHに移りたい」と言う入居者さん本人か



らの直接相談や、「誰か入居希望者はいませんか？」「もううちのGHでは対応が難しい」と言った管理者、設置者さんからの相談、「こういう方を受け入れてもらえる所はあるか」「会議に立ち会ってほしい」「第三者として話を聞いて欲しい」と言った相談支援専門員さんからの相談、その他入居者の男女トラブルやスマホトラブル、被害妄想や幻覚、幻聴、自傷、他害、激しいこだわり等の精神症状や障害特性から来るトラブルまで沢山の相談が寄せられます。

また、新たに開設したいと言う相談も多くあります。圏域の現状を踏まえ相談に乗っていますが、GHの数は年々増え続けている一方、最近では各圏域でも空きが目立ち始め、閉鎖する所まで出てきています。障害を持つ方が自分で合った場所を選べるようになってきた半面、選ばれない所も出てきているのが現状です。GHを取り巻く現状や問題は各圏域で必ずしも同じでは無く、特徴が違うところを昨年1年、支援ワーカーとして関わる中で学びました。



入居希望者の傾向として、安房圏域では立地（利便性）を気にする方が多く、その後就職先事業所、生活介護事業所といった日中利用している事業所の送迎範囲内で検討する方が多かったと思いま

す。

逆にどんなに環境が整っていてても日中過ごす事業所の送迎範囲を超えてしまおうと選ばれないという様子も見られました。

山間部より都市部、古いよりは新しいGHに入りたいと言う気持ちも当然り前かもしれませんが、支援ワーカーとして本人にとって一番心地の良いGHを提案していける様に今年も頑張りたいと思います。



## 安房圏域 GH数

法人数：35法人  
事業所数：36事業所  
住居数：123戸  
定員数：523人

令和5年 5月現在

今号から全面的にリニューアルされた「暮らしを拓く」はいかがでしたか？

千葉県グループホーム等連絡協議会のホームページも開設したので、「ホームページ」最新の活動情報を提供！

「広報誌」雑誌のように読み込める情報を提供し、役割を分担する事にしました。

デザインもスタイリッシュに、写真もふんだん

## 後記 編集



## グループホーム等支援事業について もっと知りたい方はコチラ

ホームページ



ツイッター



に使って、明るい紙面づくりを意識しました。  
次回からも千葉県で充足を期待されているGHに増えて頂くために、福祉事業所へインタビューを行ないます。  
「みてみてマホーム」では、千葉県内の素敵なGHも紹介して行く予定です。それでは、次回も、よろしくお願ひします。  
連絡協議会 広報班一同

暮らしを拓く48号 発行  
千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会  
TEL:0478-79-6919（事務局） MAIL:kouhou@chibaghw.org  
発行日/令和5年6月24日 編集/連絡協議会 広報班